

2021年3月修了生12名のコメント ～2年間の研修を振り返って～

- 海ヶ倉紀文（2019年鹿児島大卒）

この2年間はとてもあっという間に過ぎ、思い返すととても多くの経験を積むことができた。実臨床の現場で実際に勤務し始めて、患者との関わりや生死とふれあうことで葛藤や時には喜びも感じることもできた。当院での研修が終わると4月からは新天地で外科レジデントとして勤務するが、当院での経験を存分に活かして勤務に励もうと思う。

- 小林千晴（2019年東京慈恵会医科大卒）

当院で2年間の研修を終えて、つらいことも勿論ありましたが、楽しく、やりがいのあることの方がずっと多い2年間でした。医学に関わらず色々なことに勉強熱心な同期や、知識が豊富で優しくも指導熱心な先生方に囲まれ、充実した楽しい時間を過ごすことができました。来年以降は大学病院での勤務となりますが、この2年間の研修を糧に、新しい環境でも頑張っていきたいと思います。2年間本当にありがとうございました。

- 関彩千子（2019年順天堂大卒）

初期研修の2年間が終わりました。

右も左も分からなかった2年前と比べると、少しは成長できたでしょうか。済生会中央病院での研修は、尊敬できる指導医や優秀な同期に囲まれて毎日が刺激的でした。これからも、済生会中央病院で学んだことをいかして、医師としての力をつけていきたいと思います。ありがとうございました。

- 高梨剣吾（2019年東京医科大卒）

長いようでとても短い研修が終わりを迎えます。この2年間は、とても濃密で重要な期間でした。

働き出した頃は右も左も分からず、こんな自分が本当に医療者としてやっていけるのだろうかとながてネガティブな思考に走ったことも多々ありました。しかし、済生会中央病院のあらゆる職種の方々の支援のお陰でここまで成長出来ました。そんな2年間の経験を生かし、4月からは脳神経外科医として働き出します。新しい環境はやはり緊張しますが、済生会中央で経験したことを糧にして新たな医師人生を歩んでいこうと思っております。2年間の振り返ると、苦しいことも多々ありましたが、楽しいこともたくさんありました。濃密な時間を過ごした済生会中央から離れるのはとても寂しいと感じています。それだけこの病院で研修出来たことが良いことであったと思います。済生会中央病院の皆様、2年間本当にお世話になりました。また今後もよろしくお願い致します。

- 田村健蔵（2019年山口大卒）

早いもので初期研修が始まって2年が経ちました。期待と不安を感じながら出勤していた頃がついこの間のように感じられます。済生会中央病院での生活は、尊敬できる上級医の先生方、明るくいつでも相談に乗ってくれる同期、頼れる後輩とともに仕事も、プライベートも充実した生活をおくることができました。大変な時期も、お互いに支えあうことで充実した2年間の初期研修を終えることができたと思いま

す。

- 中島菖子（2019年東京女子医科大卒）

「言われたことをやるだけ、オーダーするだけの仕事だったらロボットでもできる。研修医もチームの一員であり、病態を考えて治療方針を考える。」という内科指導医の一言が、この2年間で特に印象に残っています。また、内科では「なぜ？」をよく聞かれます。初期研修が終わっても自分でよく考え、自己研鑽を忘れず、済生の精神のもと医師として頑張っていきたいと思います。

- 永津佳奈（2019年慶應義塾大卒）

学生実習の救急外来で第一線で診療されている初期研修医に魅了され済生会中央病院初期研修を志望した。2年間の初期研修の結果、当初の憧れであった救急での初期対応を出来るようになった。学生時代に思い描いていた姿と現実が違っていた点は、2年間の研修を通して皮膚科医に進むことに決めたことである。学生時代の時には気がつかなかったこと、済生会で研修をしていて何より良かったと思う点は、一緒に切磋琢磨できる仲間を作れたこと、忙しい中でも時間を割いて優しくときに厳しく教えてくださる上級医の先生方に恵まれていたことである。

- 堀江和史（2019年慶應義塾大卒）

2年間で思い出のtop3を考えてみた。

1位 初めての救急外来日直で入院を上げたが、翌日その内容に関して15分以上電話で怒られ、救急外来が恐怖になった。

2位 救急外来で3次救急での対応に先生と看護師に怒られ、なおさら救急外来が恐怖になった。

3位 状態安定していた患者様が夜間突然急変して帰らぬ人になり、恐怖を覚えた。

総じて医者として活躍した思い出よりもその他の思い出の方が印象に残った2年間であった。

- 増田光佑（2019年順天堂大卒）

ここでの研修を終えて、内科救急外科と充実した研修を送ることができたと感じています。まず外科に関しては創部処置などたくさんの手技を行うことができ、救急外来でも生きるといったような研修でした。内科救急では患者受け入れから入退院まで良い研修を送ることができたと感じています。研修として進められます。

- 三宅広晃（2019年東邦大卒）

この2年間各科の先生方や研修事務の方々など沢山の皆様にお世話になりつつ、医師人生を始める事ができました。1年目は仕事に慣れるのに苦慮しましたが、なんとか徐々に慣れてきて、2年目はどうしてこうするか、他の方法は何かダメなのかなど、本を積極的に読んでエビデンスを重視しつつ、日常の臨床的疑問なども論文や海外のガイドライン含め調べるようになりました。少しずつですが後輩への指導なども出来るようになり、指導する際に自分の知識の確認と足りない部分も感じ、いい流れが出来ているなど感じる今日この頃です。来年度からは済生会中央の後期研修として勤務させていただきますが、引

き続き自己研鑽と後輩指導に邁進したいと思います。

- 村上諒典（2019年慶應義塾大卒）

当院での研修は実臨床に触れる機会が多く、その中で最も自分が進みたいと思った科を選択することができた。指導医に大変恵まれた2年間であったし、その分上級医や実務の中で学んだことはとても多かった。学術的な面で研修医として十分なレベルに達している自覚はないが、初期研修で培った積極性を活かして救急科の専修医としてこれからも多くのことを経験していきたい。